

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700364		
法人名	株式会社 アールアイエス		
事業所名	洛和グループホーム太秦 1F		
所在地	京都市右京区太秦袴田町9-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2670700364-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のその人らしさを大切に、お一人お一人の状態に合わせた個別ケアを実施している。これまでの生活を、可能な限り継続できるよう、ご本人・ご家族からの情報を活かしながら支援し、1年に1回個別外出の機会を作り、普段行けないところに出掛ける等、満足の向上に努めている。また個別ケアを実施していく中で、地域住民との交流を少しでも増やせるよう、散歩の機会も多く作っている。また、毎日玄関ポーチで、1～3階の利用者・職員と共に歌やレクリエーションを行い、交流を行なっている。室内においても廊下を歩いたり、ラジオ体操をしたり、運動の機会を作り、現状の維持向上に努めている。健康維持促進の為に毎食後の口腔ケアの実施も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、「和を以て繋がっていく 地域に開かれたグループホーム 笑顔と居心地の良いケアを求めて」と理念に掲げ、利用者の言葉を大切に耳を傾け、思いや希望等を引き出せるよう側に寄り添って見守るケアを大切に日々の支援に取り組んでいます。毎年ホームで開催する太秦祭りには津軽三味線のボランティアによる演奏に合わせ利用者が歌い楽しんだり、敬老会などの地域の行事には積極的に参加し、地域との交流を大切に支援しています。研修は職員にとって気づきや情報交換の場となり認知症ケアの理解と実践に繋がると管理者は考え、積極的に研修に参加しながらサービスの質の向上をめざし日々研鑽しています。また、安全面や不快感を招かないよう環境整備にも力を入れ居心地の良いホームとなるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と居心地の良いケアを求めて との理念を掲げ、その理念を各ユニット玄関に掲示している	法人の理念を基に独自の理念を作り、一人ひとりの利用者の個別性を大切にし、喜怒哀楽のある生活で安心してもらえるような支援がしたいとの思いが込められ、日々見守るケアに努めています。理念の掲示や会議の中で理念にそったケアが実践できているか話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に参加してもらえるような行事を定期的開催している。散歩の際、近所の保育園の園児と交流したり、地域住民と積極的に挨拶を心がけている。	町内会に加入し回覧板で地域の情報が得られ小学校で開催される祭りや敬老会に利用者や参加したり、散歩時には子供から手を振ってもらえる関係が築かれています。恒例の太秦祭りには津軽三味線のボランティアの方と利用者が一緒に歌う機会となる等、地域とのつきあいを大切にし、また日々玄関前を出て過ごしている時には地域の方と挨拶を交わし交流できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開いている 町内の回覧板にグループホームからのお知らせを載せていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、会議を開催しており、対象月の現状・行事の報告、また事故の報告をし、その際に事故対策も同時に報告している。地域でのイベント等の情報をもらい参加に繋げている。	会議は2か月に1回家族や利用者、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、活動や行事等の報告や連絡後に意見交換をしています。参加者から小学校のサロンの案内をもらい一緒に行くようにしたり、高校で行う認知症サポート講座の回数を増やす等、得られた意見は運営に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進鍵の議事録を持参する等、関係作りに努めている。	運営推進会議の議事録や書類の提出時、相談事等がある時には行政の担当者を訪問するように心がけています。また研修案内が届いた際にはできるだけ参加し、協力関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待マニュアルがあり、また研修に参加している。	年1回法人で身体拘束の研修があり、受講者が伝達し、会議や勉強会等で学ぶ機会も多く、事例を参考にしながら技術や知識を深め身体拘束をしないケアを心がけています。玄関やフロアは開放し、外に行きたい方には見守りながら付き添い閉塞感のない自由な生活となるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し、日々職員間で注意をはらっている		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に口頭と書面にて十分な説明をおこなっており、改定等あればその都度説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入り口に意見箱を設けている 家族には年に1回アンケート調査を行っている 運営推進会議で外部者へ話せる機会がある	年1回法人で実施するアンケートや運営推進会議や介護計画の見直し時、面会時等に家族から意見を聞いています。ホーム内の臭いについての意見をもらい、職員間で話し合い改善策を実行し評価を行う等、得られた意見は運営に活かせるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットカンファにて、ケアプラン以外の業務に関する意見も聞き、反映させている。その他早急性があるものはその場で意見をききその都度反映させている 定期的に面談を行なっている	アンケートや毎月のユニット毎の会議、定期的に行う個人面談、日常の業務の中でも随時職員から意見を聞くように努めています。利用者の体重の増加についての意見が上がり、職員間で意見を出し合い摂取カロリーや1か月分の体重や血圧の表にしながらか改善を図る等、出された意見はサービスや運営に活かせるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員の力量評価と希望調査を行い面談している。またやりがいアンケートをとり、現状の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を活用し、力量に応じた研修参加の機会を設けている。また、それ以外の専門に応じた研修の機会もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通し、交流の機会を作っている		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなく現場の職員も同行し、ご本人から話を聞く機会をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなく現場の職員も同行し、ご家族からも話を聞く機会をつくっており、また入居後も面会時に近況報告をするなど、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族・ホームがそれぞれできる事を話し合い、協働できる案を探し出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である意識を職員が持ち、日々の家事等について、互いに相談しあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員より、家族に送る手紙の中で、本人の様子を報告している。また来訪時にも、近況を伝え、情報を共有しながら本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問しやすい雰囲気作りに努め、これまでの関係を大切にされたケアを心がけている。	教え子や近所の知人、兄弟の来訪があり、リビング又は居室に案内し、近況を伝え来訪してもらいやすい雰囲気作りやゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。普段から馴染みの店での買い物やカラオケに出掛けたり、自宅周辺のドライブ中に近所の人達に出会うこともあります。年1回の個別外出では利用者の希望の場所へ外出し、家族の対応で法事や美容院等へ外出する際の準備を支援する等、馴染みの人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、会話の取次ぎなどを行うことでコミュニケーションが図れている また、レクリエーションなど、興味の持てることは他利用者交え一緒に楽しめるよう支援している		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要とする利用者・家族には相談・支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を引き出し、把握するよう努めている。また、パーソンセンタードケアの視点で、専用紙を用いて自身の振り返りの機会を持ちカンファレンスで共有している。	入居時の面談で利用者、家族から望むことや生活歴等を聞きフェイスシートに記載しています。入居後はアセスメントシートに利用者との関わりの中での会話や様子、表情等を記載し、思いの把握に繋がっています。困難な時は仕草などからも利用者の思いを汲み取れるよう職員間で本人本位に検討し共有するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントでこれまでの暮らし方や生活歴などの把握に努めている。また日々の会話からも把握したことは職員間で共有できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、状態把握した内容を、職員間で共有し、ケアへの反映を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々の会話、家族からは面会時に話を聞き、各職員や専門職の意見を加え、今の現状にあった介護計画を作成している	アセスメントを行い、本人や家族の希望と医療関係者の意見が記載された希望用紙を参照し、カンファレンスでは分析シートより課題の抽出とケアのあり方を話し合い、介護計画を作成しています。モニタリングは3か月毎に行い6か月から1年で見直しをしています。見直す前には振り返りシートや本人の姿が分かるシートを用い変化を捉え、カンファレンスで職員の意見を出し合い、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記入すると共に、日々申し送りや申し送りノートの活用で共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を見極め、柔軟に対応できるよう努めている		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加するなど、かかわりを大切にしながら、可能な限り支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も希望があれば、長年慣れ親しんだかかりつけ医を利用できるよう支援している また入居途中でもニーズに応じ対応している 24時間の医療連携をしている	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる事や協力医について説明しています。かかりつけ医への受診は家族が対応し、受診結果は口答で報告してもらっています。月2回協力医の往診を受け、訪問看護師の健康チェックを週1回受け、24時間連絡が取れ協力医療機関との連携が図られています。また、皮膚科や歯科も必要に応じて往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けている 24時間の医療連携をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と、職員で連絡を取り合い、相談しやすい関係作りに努めている。出来るだけ早期に退院できるよう情報交換し、退院準備に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期について話し合い、家族の希望を繰り返し確認しながら、臨終に立ち会える医師を探すなどを行なっている	入居時にホームの看取り指針を説明しています。状態に変化があればかかりつけ医が家族に状況を伝え、看取りを希望すれば対応可能な医師に繋げ、家族の協力等の体制を整え方針を共有し支援しています。看取りについて法人の研修や事例を交えて訪問看護師より学ぶ機会があり、職員の不安解消に繋がるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員救急救命の講習会を受講している。いざと言うときの対応方法などをマニュアル化し分かりやすい場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に一回、独自で実施 年2回、消防署職員立会いで訓練も実施している	年2回夜間想定で消防署立会の下、利用者も参加し防災訓練を実施し、避難誘導や初期消火等の訓練を行っています。2か月に1回避難訓練や防災設備の点検や紙面上で確認を行い、情報を共有しています。運営推進会議で訓練実施の案内や地域へ協力を要請しています。	

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった関わりを職員一人一人意識しながら対応をしている また研修やカンファレンスの中でも学べる機会を作っている	利用者は人生の大先輩であり、尊厳を持って関わり、丁寧な言葉遣いを基本としています。排泄介助時には他の利用者に分からないような声の大きさや同性介助にも配慮しています。様々な研修の場や会議、日々の中で管理者は折に触れ尊厳や言葉遣いについて話し、理解が深まるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行っている 献立を一緒に考えたり、また「何が良いですか？」では決定が困難なご利用者には、2～3種類を提示し、「どれが良いですか？」と選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るかぎり各利用者個人のペースを大切にし希望にそえるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に本人が好んで着用される洋服を持参していただき、外出時はその時に各利用者が希望するおしゃれ(洋服・帽子)ができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ献立を一緒に考え、各利用者にあつた食事準備を共に行っている(下ごしらえ・味付け・盛り付け等)	利用者から食べたい物を聞いて献立を決め、食材は業者から届き、足りない物やおやつを利用者と一緒に買いに行っています。利用者は下拵えや盛り付け、後片付け、食器拭き等に携わり、会話も楽しみながら職員も同じ物を一緒に食べ楽しい団欒の場となるよう支援しています。またホテルでの食事会や出前、バイキング、手作りのおやつ等食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた状態把握をし個々にあつた食事の提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の健診を受け、必要な方には歯科衛生士による口腔ケアを受けている。またその指示に従って、適宜、歯磨きやうがいを行っている 1日3回の口腔ケアができるよう支援している		

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンにあわせた、排泄の声掛けや介助を行っている	利用者個々の排泄状況を記録しパターンや習慣を把握し、表情やサイン等を見ながらトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行っています。利用者の状況を見て紙パンツから布下着に変更する試みや排泄用品の検討等を行い排泄の自立へと繋げ、個々にそった支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者にあつた便秘予防(水分摂取方法)を職員で検討し水分を多く摂ったり、食事や運動で便秘予防に努め、必要に応じ主治医や訪問看護師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、各利用者の希望に添えるよう入浴の支援をしている 拒否があれば、声掛けの方法を変えたり、散歩のあとに誘うなど、工夫している	入浴は、週2、3回を目安に午後から湯の好みの温度に配慮し声をかけ、その方のペースに合わせた入浴の支援をしています。希望があれば朝や夜、毎日の入浴も可能です。拒否があれば声をかけるタイミングの工夫や職員を変え無理なく入浴してもらっています。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯を実施してゆっくり会話しながら入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の日々の状態を見極め、状況に合わせて、休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をわかりやすくまとめ、事務所内にて保管し、いつでも誰でもすぐに確認できるようにしている 服薬はマニュアルに沿って実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者にあった、役割を考え支援している 役割や楽しみについてもケアプランにて、職員が共有できている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の状態や希望に合わせて、外出の支援に努めている 普段行けない場所へは、日頃の本人との関わりの中からリサーチしたり、家族に相談し個別行事として、年に1回行ける様支援している	日常的に天気の良い時は散歩を実施し、雨の日も玄関先で外気に触れる機会を作っています。全員でホテルで食事会をする時は家族にも声をかけ、ドライブや買い物、初詣、桜や紅葉等の季節の花見に出掛けたり、個別で水族館やショッピングモールへの買い物に出掛ける等、外出の機会を多く作れるように努めています。	

洛和グループホーム太秦(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物が出来る場所では、職員と一緒に買い物を楽めよう利用者の力に合わせた支援を行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	架電希望があればその都度支援している 利用者が書いた年賀状や、手紙についても希望に応じ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒にリビングや玄関に季節の花を飾ったり、季節に応じた作品などの飾り付けを行い、暖かく居心地の良い環境づくりに努めている	玄関やリビングに置かれた生花や壁に飾られた作品からも季節感を出せるよう工夫したり、廊下に置かれた手作りの飾り棚が家庭的な雰囲気作りに活かされています。利用者同士の相性を考慮してテーブルやソファの配置を工夫し、廊下に置かれたソファや椅子で一人になれるスペースも用意しています。臭気対策や清掃を丁寧に行い、温湿度管理や加湿器、空気清浄機を設置し、快適に過ごせる環境となるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやベンチ、テーブルを置き、リビング以外にもくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してこられた部屋に近い状態を再現できるよう、家族に馴染みのものを持参してもらっている。状態に応じその都度、本人・家族と相談しながら安心して過ごして頂ける環境づくりに努めている	入居時に使いなれた馴染みの物を持って来てもらえるよう説明し、机やテレビ、ソファ、椅子、筆筒、仏壇等を持ち込み家族と職員で相談しながら安全面にも配慮し配置しています。趣味の本や和紙、CD、そろばん等大切にしていた物を持ち込んだり、新しく作った作品を飾る等、思い思いに居心地よく過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は、個別に個性のあるものにし、分かりやすい工夫をする事で自立支援に繋げている		